

第1学期終業式 式辞

令和7年7月18日

吉高 2025・アきらめなイ 夏！（アイ夏！）をテーマに全校応援で行いました。ところで、皆さんは、応援される人になっ^ていますか。応援するより応援される人にな^りなさいとよく言われたことがあります。何かに一生懸命に取り組み、打ち込んでいる人、その姿は、人の心を動かし、応戦せずにはいられなくなるものです。真剣に打ち込んだことは、人生の財産とな^って、その後の自分の生き方を支え助けてくれるもの、自分の人生にプラスとな^って返ってくるプレゼントのようなものになると、私は思っています。いい加減にしたことは、振り返った時に、記憶にも残らず、自分の成長にさえま^ってないようにも思います。また、応援される人は、自分を応援してくれる人の気持ちをよくわかり、その思いに応えようとする感謝の気持ち・優しさももっている人だと、私は思います。優勝者とは、「優れる」に「勝つ」者と表現しますが、それは、優れていて勝つのではなく、自分を応援してくれるその人の思いに、だれよりも感謝して誰よりも優しさで優^るからこそ勝者、優勝者になると話していたスポーツマンがいました。私はこの考えに賛成している一人です。自分を支えてくれる人の存在、その優しさに気づくことができる人は、周囲の存在が心の支えとなり、より多くの力が発揮でき、エネルギーとなる。誰よりも優しく周囲や仲間^とに接して、より大きく成長して、優勝する人になるのかと思います。決して人を蹴落^したり、恨んだりひがんだり、仲間のミス・エラーを許さず憎むような人には、勝利は舞い降りてこない^しと私は思っています。かなり昔の話になりますが、かつて全国大会の決勝に臨んだ高校が、決勝戦当日、選手を乗せたバスが会場に予想以上にかなり早く到着してしまいました。皆さんなら、どう過ごすでしょうか。対戦相手の分析をする。必ず優勝するぞと気合を入れ直す。いろいろあるでしょうが、その時、チームのキャプテンは、この会場に決勝戦までお世話になったので、会場周辺の掃除でもしま^しようと言^い出して、チーム全員で決勝戦を前にして掃除を始めたそうです。優勝したいという思いよりも、会場に感謝して優しくなれたこのチームの選手たちに、私は驚いたことを覚えています。少し話が逸れてしまいましたが、応戦される人は、とても優しい人でもあるように思います。

さて、皆さんの夏、どのようなことに打ち込もうとしていますか。もしタイムマシンがあるなら、私は10億円を支払ってでも、そのタイムマシンに乗り、もう一度、皆さんの高校生時代の夏に返ってもいいと思うときがあります。そんな大金を払ってでも、皆さんの高校時代には価値があると私は思うのです。この夏に、何にも取り組まず、何にもチャレンジすることなく、後悔の残る夏にしてしまう君たちがいたなら、もしかしたら何億円も貴重な時間を捨てているのかもしれない。でも、その時代を生きる皆さんには、この時に貴重さ・価値に気が付かない。いや、気づけないのかもしれない。バーナードショーという、ノーベル賞作家でさえ、「若い人には、青春はもったいない」と言っているくらいですから。私も高校時代に気づくことができず、かなりもったいなくこの時を過ごしてしまいました。後悔しています。

さて、一学期を振り返ると、いろいろなことがありました。その時その時、皆さんは懸命に活動し、その困難を乗り越えてきたのかと思います。上手くいったこと、そうではなかったこと、過ぎたことは取り戻せませんから、さあ、今日、今から、それぞれの諦めない夏を過ごしてください。

三年生は、今後の将来に向けて真剣に考え、具体的に希望を絞っていく大事な時期です。一、二年生は、課題や部活動など、新たな目標をしっかり見つけ進んでいくことになりま^す。二学期元気な顔で会いま^しよう。いつも私は、皆さんを応援しています。いい夏休みを。以上で、私の式辞としま^す。